



図 2.4.8(11) クマタカの出現軌跡図 (平成 27 年 3 月)

【クマタカの平成 26 年の繁殖状況】

①青川つがい

平成 25 年 12 月調査では、V 字飛翔や波状飛翔等の誇示飛翔やペアと見られる成鳥 2 個体での止まりなど、求愛活動と考えられる行動が確認された。平成 26 年 2 月調査では、既知の営巣地付近でペアのとまりや交尾行動（写真-1）等が確認され、植林内のスギに架巣が確認された（写真-2）。平成 26 年 3 月調査では、産卵準備とみられる行動が確認され、それ以降も巣を中心とした活発な出現状況が確認された。

平成 26 年 8 月調査では、幼鳥が出現し、繁殖の成功が確認された。幼鳥は、平成 27 年 3 月時点まで、営巣地周辺で継続して確認されている。



写真-1 交尾するクマタカペア



写真-2 確認された巣とクマタカ

②大貝戸つがい

平成 26 年 2 月調査以降、既知の巣より尾根を隔てた南西側での出現が多く見られた。同年 8 月、巣を確認した（写真-3）。

平成 26 年 8 月調査では、幼鳥が出現し、繁殖の成功を確認した。幼鳥は、平成 27 年 3 月時点まで、営巣地周辺で継続的に確認されている。



写真-3 大貝戸つがいの巣

【平成 27 年の繁殖状況】

①青川つがい

平成 27 年 3 月調査においても、平成 26 年生まれの幼鳥が、営巣地付近で確認された。幼鳥は巣立った後も親の営巣地付近に長期間留まって世話を受けるため、翌年は繁殖活動を行わないのが通例である。成鳥にも繁殖を示唆する目立った行動がみられないことから、本年は繁殖を行わない可能性があると考えられる。



写真-4 確認されたクマタカの幼鳥(青川地区) 写真-5 確認されたクマタカ成鳥(青川地区)

②大貝戸つがい

青川つがい同様、平成 27 年 3 月調査においても、営巣地付近に平成 26 年生まれの幼鳥が確認された。その一方で、本つがいについては、2 月に交尾行動が確認され、3 月に巣材の採取や営巣林付近への持ち込み等が確認された。

本種の場合、前述のように幼鳥が巣立った翌年は繁殖活動を行わないのが通例であるが、成鳥の行動から、本年も続けて繁殖を行う可能性を否定できない状況である。



写真-6 確認されたクマタカ幼鳥(大貝戸地区) 写真-7 確認されたクマタカ成鳥(大貝戸地区)

7) 環境保全措置に係る検討

調査の結果、平成 27 年はイヌワシの繁殖の可能性が低いと考えられる。クマタカについては、大貝戸つがいで、成鳥が繁殖行動を見せており、現時点ではその可能性を否定することができない状況である。

また、環境影響評価書において、イヌワシ・クマタカの餌場環境創出の観点より試験的に設置するとした林冠ギャップについては、平成 26 年 4 月予定どおり、その設置が完了した。同ギャップの効果に係る各種モニタリング調査は、今後、下草環境等、現場の状況を見極め、適宜実施する計画である。

8) 有識者への意見聴取

環境影響評価準備書に対する三重県知事意見に記載のある“希少動植物種の保全に係る有識者への意見徴収”について、以下のとおり、本事後調査内容に対する指導を仰いだ。有識者からの意見内容及び意見に対する事業者の対応は、以下に示したとおりである。

| | |
|--|---|
| 件名 | 藤原鉦山およびその周辺次期原料山開発事業環境影響評価事後調査 (イヌワシ・クマタカの繁殖状況調査に係る意見聴取) |
| 対象者 | 立教大学 理学部 教授 上田恵介先生 |
| 日時 | 平成 27 年 4 月 27 日 10:45～ |
| 場所 | 立教大学 理学部 |
| <p>【内容】</p> <p>○平成 26 年繁殖シーズンにおけるイヌワシ・クマタカの利用状況や繁殖状況を説明し、併せて、平成 27 年繁殖シーズンにおける現在までの状況を説明した。</p> <p>○同説明に対し、上田先生より下記のご指導・ご助言を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヌワシ・クマタカのうち、クマタカは一般的な習性どおりに繁殖活動を実施している。このことから、当該事業実施区域周辺は、クマタカにとっては生息に適した良好な環境が整っている証拠であろうと考えられる。しかし、イヌワシにとっては厳しい環境であることが示唆される。それがどのような理由によるものか判断は難しいと考えられる。 ・昨年も指摘したが、繁殖に失敗した時、その原因について追及することは困難と思われるが、周辺で行われている他の工事や事業等、いつもと異なる要因がみられた場合には記録しておくのが望ましい。(報告書には記載しない) ・ここ数年、イヌワシの繁殖がみられないのが気にかかる。非繁殖期の状況も把握しておくため、調査地点数・調査頻度を調整し、周年調査の実施を検討してはどうか。 | |
| <p>【事業者としての対応】</p> <p>ご指摘頂いた注意事項に留意し、今後も事後調査計画に記載した猛禽類の保護に係る調査を継続してまいります。</p> | |

資料編

1. 植物重要種移植の移植個体写真（昨年度移植の結果確認）
2. カナマルマイマイの個体写真
3. 猛禽類出現状況表
 - 3-1 イヌワシ
 - 3-2 クマタカ



資料1(2) 植物重要種の移植个体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度。（）内は現況調査時のGPS番号



資料1(3) 植物重要種の移植個体写真※上段：移植時（昨年）、下段：今年度。（）内は現況調査時のGPS番号



資料1(4) 植物重要種の移植個体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度。（）内は現況調査時のGPS番号



資料 1 (5) 植物重要種の移植個体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度. () 内は現況調査時の GPS 番号



資料1(6) 植物重要種の移植個体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度. () 内は現況調査時の GPS 番号



資料1(7) 植物重要種の移植個体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度. () 内は現況調査時の GPS 番号



資料1(8) 植物重要種の移植個体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度。（）内は現況調査時のGPS番号



資料 1 (9) 植物重要種の移植個体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度. () 内は現況調査時の GPS 番号



資料 1(10) 植物重要種の移植個体写真 ※上段：移植時（昨年）、下段：今年度。（）内は現況調査時の GPS 番号

